

平成 25 年度 横浜ひなたやま支援学校 学校評価実施報告

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p>人権を大切に、個人への配慮がある集団指導を実践する。</p>	<p>ア. 生徒自らが目標を設定し、それに向けて努力する生徒を育む指導の実践 イ. 成功体験を積み上げ、自己効用感を育成し、意欲を高める指導の実践</p> <p>ウ. 「働くこと」「卒業後の生活」を生徒が意識することができる指導の実践</p> <p>エ. アセスメントに基づくきめ細かな指導の実施 オ. 交流及び地域のリソースを活用した指導の確立</p>	<p>ア. 生徒自身が主体的に取り組む場面を設定し成功体験を積み上げていく指導ができたか。 イ. 進路を意識し、家庭生活や社会生活に必要な基本的な力を伸ばす指導ができたか。 ウ. アセスメントに基づき個々の生徒に適切な課題をしたうえで集団指導ができたか。</p> <p>エ. 地域のリソースを知り、それらを生かした教育活動を始めることができたか。</p>	<p>ア. 複数回の生徒面談を行い、各自の課題を意識することを促した。 学校目標とコース制をとる意味を生徒向けに丁寧に説明した。 イ. 職場就労支援センター所長の講話で卒業後に必要な力をいまどのようにつけるか考えた。 ウ. アセスメント期間に多角的に生徒の課題を分析し2学期からのコース別クラス編成を実施した。</p> <p>エ. 「よこひな祭」に地域の「如月太鼓」の方を招き交流ステージをもてた。 ・サマーフェスティバルは準備作業の手伝いやパン販売で参加した。 ・下瀬谷ケアプラザへの見学などを通じて地域の機関と協力した授業づくりを行った。 ・ポスティングを通じて学校の周辺地域への理解を深める学習を行った。 ・地域の方から講習を受け、グラウンドゴルフ大会に取り組んだ。</p>	<p>ア. 必要に応じて生徒面談期間を設定したが、通年及び3年間でねらいを明確にして、他の行事と関連づけて面談を実施できるよう検討する。 イ. 日常生活や卒業後に身につけさせたい事項を年間指導計画においてこまめにする。 ウ. アセスメントの自分自身の課題より、コースの優劣を意識する生徒がみられた。各コースの中で目的や課題を明確にして学べる授業づくりと学校生活全般を通じて生徒の自尊感情を高めることについても配慮が必要である。 エ. 今後も地域のリソースについて情報収集を行い、いろいろな授業に活用できるようにしたい。</p>	<p>(学校評議員・地域の方)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域への情報開示もよく、閉鎖的でなくて良い。ただ、地域の団体、自治会を含めているいろいろな経験者の力を借りる様な事も利用しても良いと思う。 ・新設学校ということもあり、学校目標に対して、職員が一丸となり、日々の教育活動に向き合っている姿は大いに評価できる。今後は、学校から地域に出て行く活動も重要になると考える。 ・学区内の支援学校であり、今後も様々な交流を進めていきたい。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動や委員会活動、部活動等、自ら意欲を持って取り組めるよう設定した。 ・携帯電話等による生徒間のトラブルがあった。 ・自治会や地域の機関と協力する機会を持った。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校いじめ防止基本方針」に則り、いじめのない学校作りを推進するとともに、生徒が自他を大切にすることを育てる。 ・アシスタントティーチャー制等、地域の力を活かし、障害のある生徒に対する理解を深めて行く。
<p>知的障害高等部単独校、地域性を生かした教育課程を構築する。</p>	<p>ア. 生徒のアセスメントを位置づけた教育課程の構築 イ. 生徒のニーズ等に効果的に対処できるコース制の構築 ウ. 地域等の資源を生かした教育課程の構築</p>	<p>ア. アセスメントを明確に位置づけた教育課程を構築できたか。 イ. 生徒のニーズ等を踏まえたコース制を設定できたか ウ. 地域等の資源を生かした教育課程は構築できたか。</p>	<p>ア. アセスメント期間は自立支援コースの教育課程を履修し、1学期間をアセスメント期間とした。 イ. それぞれのコースの特徴を職員間で共有し、コース制を踏まえた各授業の指導形態を定めた。 ウ. 特別活動(文化祭)、体育、作業学習等で地域の人を講師とした授業や地域での授業を実施した。</p>	<p>ア. アセスメントの内容・結果の活用について検討が必要。 イ. コース別の取組により見えてきた課題の整理、コースの選択方法についての検討が必要。 ウ. 指導内容の整理と体系化により、計画的な地域資源の活用可能性を検討することが必要。</p>	<p>(学校評議員・地域の方)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料で判断すればできるが、実体験が伴わない為、何とも言いえない。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期間をかけたアセスメント、面談、コース検討等、一人ひとりの実態や課題、意欲や希望を勘案したコース決定までの流れができた。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、コース制を生かした教育課程を検討する。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
生徒が健康・安全・安心して生活できる学校教育環境の体制を整備する。	<p>ア. 生徒が学習しやすく、教員が指導しやすい教育環境の整備と管理運用システムの構築</p> <p>イ. 健康で安全な学習ができ、また事故に対応できる体制の整備</p> <p>ウ. 将来の自立生活の基礎を培う給食体制の構築</p> <p>エ. 地域と連携した防災対策の確立</p> <p>オ. 指導で活用しやすく、情報セキュリティが確立した情報システムの構築</p> <p>カ. 少人数の職員で、支障なく業務進行できる組織的・有機的な分掌運営の整備</p> <p>キ. 職員の自己啓発に基づく不祥事防止システムの確立</p>	<p>ア. 教室環境の充実に向けた現状把握、課題の整理、調整等を行えたか。</p> <p>イ. 安全を確保する体制の基盤を整えられたか。</p> <p>ウ. 地域と連携した防災対策に取り掛かれたか。</p> <p>エ. 組織的・有機的な分掌運営の整備ができたか。</p> <p>オ. 教職員一人ひとりが不祥事防止に向けた意識向上を図ることができたか。</p>	<p>ア. 教室等の施設設備の充実に向けた全校の情報収集と調達の優先順位の選定基準を定め物品調達の調整を行った。</p> <p>イ. 応急処置、救急法などの研修を行った。また、不審者対策、防災対策、感染症対策、気象状況を踏まえた健康対策等について、要項等に沿って取り組み、その改善を図った。</p> <p>ウ. 地域防災拠点の活動に参加し、地域防災拠点運営委員会の状況を把握した。</p> <p>エ. グループリーダー会の機会を中心に各グループ間の取組を情報共有し、互いの担当業務について検討し、必要に応じて他グループと連携して業務を遂行した。</p> <p>オ. 不祥事防止のための情報提供や研修会を実施した。</p>	<p>ア. 物品調達の調整と決定について、計画的に取り組めるための仕組みの検討が必要。</p> <p>イ. 学校保健安全のための研修や訓練に、定期的かつ計画的に取り組むことが必要。</p> <p>ウ. 地域防災拠点における学校の役割や地域防災拠点が機能したときの学校の対応について、マニュアルを作成することが必要。</p> <p>エ. グループ内の組織づくりと担当者の明確化、統括者の役割など、グループ運営についての検討が必要。</p> <p>オ. 職員の自己啓発につながる不祥事防止に向けた取組の工夫が必要。</p>	<p>(生徒)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かだんの花がかれている ・きれいな学校にしたい <p>(学校評議員・地域の方)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とても熱心に取り組んでいる。 ・地域としては、地区協、文化スポーツクラブ、地域防災拠点等、地元自治会等があるが、現状、学校の情報がそれぞれに對して伝達されている様なので、できるならば一元化し、みんなが同じ情報で活動できるとよい。 ・「よこひな通信」が唯一の情報伝達の手段であり、学校行事への地域住民の参加が少ない為、なかなかコミュニケーションが取れないのが現状。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開校初年度にあたり、施設設備の充実に努めた。不足しているものが多く、県内の遊休物品の調達・移送を繰り返した。 ・本校独自の防災対策を進めながら、瀬谷区より指定されている地域防災拠点として、地域と連携した。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的に施設設備を充実させ、安心安全な学校運営を目指す。 ・地域と共催の避難訓練を行う。 ・学校からの情報伝達について、地域と再検討する。 ・「よこひな通信」の掲載内容について検討する。
教員の専門性の向上を実践の中で培う体制を整備する。	<p>ア. 限られた時間の中でもできる研究・研修システムの確立</p> <p>イ. 目標設定から評価まで活用しやすい個別教育計画の様式の作成</p> <p>ウ. 生徒一人ひとりの発達段階や特性、教育的ニーズを的確に把握するアセスメントシステムの構築</p> <p>エ. アセスメントに基づくきめ細かな指導法の確立</p>	<p>ア. 効率的な研究・研修システムの確立ができたか</p> <p>イ. 生徒一人ひとりの発達段階、特性、教育的ニーズを的確に把握するアセスメントシステムの構築ができたか。</p> <p>ウ. アセスメントに基づき、目標設定から評価まで活用しやすい個別教育計画を作成できたか。</p>	<p>ア. 会議時間が少ない中で、効率的に研究・研修の時間を使って1年目の様々なことを検討することができた。</p> <p>イ. 今年度は、8種のアセスメント項目を有効に活用し、生徒の特性やニーズを的確に把握し、コース決定等にも活用するなど、アセスメントシステムが構築され、機能した。</p> <p>ウ. 目標設定から評価まで、書き方を含めて検討しながら活用しやすい個別教育計画の様式を作成した。</p>	<p>ア. 研究・研修システムの構築はまだ半ばである。</p> <p>イ. 次年度は、生徒増に伴ってニーズを的確に把握するアセスメントという視点だけでなく実施可能かという視点も必要になってくることがわかった。そのことも踏まえてのアセスメントシステムの構築は、今後も継続しての課題である。</p> <p>ウ. 今後、実際に年度をまたいで活用していく中で、様式の課題点を挙げ、改善していけるように、検討を重ねたい。</p>	<p>(学校評議員・地域の方)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、授業参観等の機会があれば是非参加したい。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率的な会議進行については、まだ実践に到っていない ・本校独自の個別教育計画を作成した。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンザライティング等、情報共有の方法について、さらに工夫し検討・実践していく。 ・外部専門家の助言を生かしアセスメント項目について検討を続ける。 ・研修体系の明確化とシステムの構築に努める。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p>インクルーシブな教育を目指した地域との連携による支援体制を整備する。</p> <p>生徒が卒業後の生活を具体的に想定でき、希望を抱ける進路活動を展開する。</p> <p>自己を客観的に捉え、かつ前向きに課題解決に向かうことができる教育相談体制の整備及び地域との連携による支援体制を整備する。</p>	<p>ア. 近隣の特別支援学校及び関係施設との連携体制の確立</p> <p>イ. 地域の学校に対するコンサルテーション及び地域への公開研修の実施</p> <p>ウ. 地域のリソースを活かし、近隣企業・関係施設と連携した教育活動の確立</p> <p>エ. 卒業後の生活をイメージできる進路情報提供と相談体制の確立</p> <p>オ. 進路担当と作業担当との連携による作業学習システムの構築と指導への反映</p>	<p>ア. 近隣の特別支援学校との連携体制の確立を図り、地域の学校及び関係施設との関係づくりを行うことができたか。</p> <p>イ. 地域のニーズを把握し、公開研修を企画し、実施することができたか。</p> <p>ウ. 地域のリソースを発掘し、企業及び施設へ教育活動の連携を図ることができたか。</p> <p>エ. 3年後を見通し、現在の進路情報を進路説明会等で提供できたか。また、相談体制の確立を作り上げていくことができたか。</p> <p>オ. 進路担当と作業担当との連携による作業学習システムの構築と指導への反映が行えたか。</p>	<p>ア. 開校初年度は、近隣の瀬谷さくら小学校・松陽高等学校のコーディネーターを中核に、個別級の児童・生徒への巡回相談や電話相談を始めた。また、自立支援協議会等の会議にも積極的に参加し、顔の見える関係づくりを心掛けた</p> <p>イ. 夏季には、横浜泉区の事業所の方を講師に招き地域防災を含めた福祉と地域の関わりに関する講演を実施した。</p> <p>ウ. 地域の店舗、障害雇用に関心のある企業・ケアプラザ等に積極的な訪問や電話等の開拓に努めた発展中、作業学習の製品販売や実習依頼、受注、祭りへの参加等を行い、連携に努めた。</p> <p>エ. 進路説明会をはじめ、個人面談や教育相談等を活用して、保護者や生徒に情報を提供した。</p> <p>オ. 今年度は進路担当と作業担当を兼任であったので、進路担当として得た情報や知識を活用し、作業学習に反映させることができた。</p>	<p>ア. 中学校への積極的なかわりを考えていく。たとえば個別級やコーディネーターの先生方と、互いに学び合える機会を設けて関係性を深めていく。</p> <p>イ. 地域の方の対象者を整理する。(教員向け・保護者向け・地域住民向け・個別級の児童生徒向け・地域の小中高校生向け等) 本校が展開している作業学習や教科等を体験してもらおう企画等を考えていく。</p> <p>ウ. 近隣にはまだまだ開拓できる施設や企業があるので、今後も開拓していく必要がある</p> <p>エ. 生徒には、高等部1年生を対象として、教育相談週間を設けて、生徒が自分自身の思いを表現する、また対話することが人とのつながりを築くことだという思いを伝えていく等、工夫する進路は、福祉制度や障害者雇用の制度が日々変容していることもあるので、最新情報にアンテナを持ち、情報を発信していく。</p> <p>オ. 今後は、それぞれの担当がいることになると思うが、その際の連携の仕方には検討が必要である。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とても満足している。親も支えてもらっている。 <p>(学校評議員・地域の方)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア進路指導については、来年度(平成26年度)2学年の企業実習等を通じて展開されるので、イメージ作りの一助が出来ればと思う。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開校初年度のため、まずは学校を知ってもらうために、関係機関に向いたり、会議に参加することで、顔の見える関係作りを進めた。 ・常に情報発信を心がけ、居住地域の情報を適時適切に伝えられるように情報収集に努めた。 ・全教員で実習先を開拓し、今後の進路指導につなげた。 ・校内の教育相談を開始した。 ・生徒のみならず、家庭支援にも力を入れた。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内の相談体制を確立する。生徒に、一人で悩まずに早期に相談するよう意識付ける。 ・校外相談を開始し、支援の必要な児童生徒が地域で学べるように支援する。 ・関係機関との連携を推進するため、会議参加が一人に偏ることなく、複数が対応できる体制を整える。 ・作業学習の意味を校内で共有するとともに、作業学習のあり方について検討を進める。 ・NPO法人とのよりよい連携を推進するため、校内での話し合いを十分に行う。